



柏の葉だより

第7号

市川市立第五中学校
令和5年11月8日



「学校教育目標」

学ぶ楽しさを知り 生きる喜びが分かる 心身ともにたくましい生徒の育成を目指す

不易（本）と流行（タブレット）

「教育における不易と流行」という言葉は教職員の中では言い尽くされた感がありますが、今こそ、目の前の事に振り回されることなく、『不易と流行』をもう一度考える時ではないかと思えます。中央教育審議会答申（二十一世紀を展望した我が国の教育の在り方について）によれば、不易とは「どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらない価値のあるもの」であり、流行とは「社会の変化に関心をもち、時代の変化とともに 変えていく必要があるもの」と示しています。このような時代だからこそ目の前の事象に踊らされるのではなく、不易の教育を進めていく必要があります。現在の日本では地域社会のつながりは希薄化し、物の豊かさの中で心の豊かさが失われ、多くの人々が満たされない思いを抱えているように感じます。また昨今の物価の急騰や格差の拡大も教育界には暗い影を残します。そうした変化の中で、日本の子どもたちは、他者への依存心が強くなり、自分に自信がもてなくなってきました。これからの社会を生きていく生徒たちにとって、周囲の情報を正しく選択して自分の考えを確かにもつ能力とともに、人とのコミュニケーションによって様々な価値観を獲得し、取捨選択していく能力は、不確かな未来を生きる子どもたちにとって必要な能力です。特に、コミュニケーション能力は、生きる力を身につけるツールとなります。時代に必要な能力はこれまでは皆がこうだったから従うという受け身の姿勢ではなく、なぜ今までこうだったのかと自分で考える力です。自分で考えたから好き勝手にできるものでなくその決断には責任が伴います。仲間と話し合い議論しながら時間をかけて粘り強く取り組む姿勢は自分自身の成長につながります。

秋も深まり、文化の秋・実りの秋を迎え、本校でも読書週間が実施されています。『読書』は読解力はもちろん書く力、聞く力などの言語能力が身に付きます。さらに『タブレット』を活用していけば表現力、コミュニケーション能力を身に着けることができます。この2つの「本」「タブレット」はすべての五中生の身近にあります。



11月 制服登校

11月1日（水）より登校風景が制服になりました。依然正午の気温は25℃を超えることもありますが、朝夕の涼しさもあり、タイミングとしては良かったようです。本校の制服はブレザーにえんじ色のりぼん・ネクタイですが、りぼん等の着用は上着を着た時には付けるようになっています。市内の中学校ではここ2・3年で急激に制服が改定され、現在では詰襟学生服やセーラ服など昭和の学生服の“伝統”は少なくなっています。本校の制服については、市内では早期にブレザーを取り入れ、女子のスラックス選択生徒も学年に数名おります。制服について生徒からの大きな不満はあまり出ていないようですが、価格の面も踏まえ検討していきます。



<校門（A門）付近での登校の様子>

地域の教育力・柏井公民館での文化祭

10月21日（土）柏井公民館において文化祭がおこなわれ合唱部が出演しました。ここ数年間はコロナ禍ということもあり、地域での行事や公開も通常の形式では実施することができずいました。学校においても今年は数年ぶりの復活で前回を知っている教職員もなく何事にも参加には不安が伴いますが、変化することを恐れ学び・成長の機会を失ってははいけません。生徒の学び、成長の機会に寄り添いサポートすることは教員・保護者・地域の方々の大切な役割です。合唱部の生徒は晴天の秋空の下、素晴らしい合唱を3曲披露し地域の方々と素敵な時間を共有することができました。また市川三愛ホームでのボランティア活動や地域の小学生ウォークラリーの運営のサポートをする活動にも本校の生徒たちが参加します。<文責・川俣>



<合唱部お揃いのTシャツ>

五中 HP を
ご覧ください



<※学校 HP を随時更新しています。QRコードよりご覧ください>